

九州海外協力協会だより

謹賀新年

2020年・新年号

NPO
Kyushu特定非営利活動法人
九州海外協力協会

皆様お揃いで良き新年をお迎えのことと存じます。平素より本会の事業にご理解とご支援賜り感謝申し上げます。さて、今年度上半期の事業を振り返りますと、マダガスカル希少動物保護事業、カンボジア・中学校教員指導能力向上プロジェクト（JICA草の根技術協力事業）、そしてJICA九州 地域活性化のための海外技術協力事業支援業務委託が前年度終了により今期は収入減となり、若干の赤字が避けられない状況です。

2004年10月JOCA九州支部よりNPO法人九州海外協力協会へと組織変更して15年。自己資金が希薄な中でのスタートでしたが、協力隊経験の還元と地域貢献を目指し、JICA、JOCA、自治体等との連携で多くの受託事業、共同事業、自主事業を行ってまいりました。

ダーウィン進化論で、環境の変化への対応・順応性を説いています。過去の事業・活動をベースとしつつも、新たな発想と行動力で組織の活性化と経営健全化に向かってまいりますので会員の皆様の一層のご支援と提案をお待ちしております。

最後に本年が皆様にとりまして幸多き年になりますよう祈念申し上げます。

九州海外協力協会 会長 弓場秋信



《新年号特集》日本で見つけた私の任国

当協会の職員は、みな青年海外協力隊員として開発途上国で2年間活動・生活していました。開発途上国というと、日本に暮らす私たちには遠い国のことに思えてしまいます。しかし、実は今の私たちの生活の中にしっかり存在しています。身近なところから世界を感じてみませんか？

松茸 from ブータン

私の任国ブータンは松茸の産地です。ブータンからの輸入松茸は日本国内でも流通しており、国別の松茸輸入先では第5位（2017年財務省データ）となっています。隊員時代は、日本では考えられないような安価で松茸を買って、松茸三昧な食事をつくることもありました。今でもデパ地下の高級食材コーナーに並ぶ松茸を見るとブータンを思い出します。（馬田）



(イメージ)

南瓜（かぼちゃ） from カンボジア

私が日本で見つけたカンボジア！それは「かぼちゃ」。その昔、かぼちゃはカンボジアからやってきて、カンボジア→かんぼじや→かぼちゃ！となったそうです。確かに南瓜ってかいて「かぼちゃ」…。ちなみにカンボジアでカボチャは「ラパウ」といい、デザートに使われる方が多い印象です。中でも「ポポーラパウ（カボチャおしるこ）」は私の大好物です。（河野）



カツオ from ミクロネシア

米村の任国ミクロネシアの一大産業であるマグロ・カツオ漁。特にカツオの多くは、鰹節用として日本へ多く輸出しています。中でも鹿児島県の枕崎市は鰹節の生産量日本一で、ミクロネシア近海で獲れたカツオも多く使用されています。皆さんの食卓に上がるお味噌汁のおダシ、お好み焼きの上で踊る鰹節も、元をたどるとミクロネシアにたどり着くかも？（写真は枕崎での鰹節加工風景）



コーヒー from エルサルバドル

中南米産のコーヒーは日本にも沢山輸入されていて、その一つにエルサルバドル産があります。日本では無名な四国ほどの小国ですが、日本のコーヒー輸入先では第11位（2018財務省データ）、中米の有名どころコスタリカよりも上位なんです。皆さんも知らずに飲んでいる可能性大ですよ。ちなみにこちら、世界的に有名な某カフェで見つけました。お試してください！（橋口）



⇒小さなことでも開発途上国を知るきっかけになります。世界の現状を知り、どう行動するかを考え、実際に行動する一連の活動を「開発教育」と呼びます。このような教育活動に関心があるけどやり方が分からない…という方！まずは当協会にお気軽にご相談ください。様々な思いを形にするお手伝いをいたします。また、当協会では、各種教育機関・企業へ「開発教育」や「SDGs」「アクティブラーニング」に関する講師派遣や研修プランニングを行っております。P3に事例「開発教育指導者研修」をご紹介しますので、是非ご覧になってください。



ありがとう ラグビーワールドカップ2019日本大会！

2019年11月2日、南アフリカvsイングランドによる決勝戦。激しさを優った南アフリカの勝利により、ラグビーワールドカップ2019日本大会が幕を閉じました。このワールドカップのおかげで、たくさんの素晴らしい試合を観ることができ、たくさんのラグビーファンに会うことができました。至極の時間でした。

しかし！それだけではなく、九州海外協力協会としての新しい道が開けました。一つは「Childfund Pass It Back」。タグラグビーを通して、SDGsやラグビーの価値をアジアの課題と結び付け解決する力を子どもたちが養うプログラム。日本ラグビー協会やChildfundからお声がかかり、参加することができました。今後も続いていくプログラムです。

また、「Societe Generale “Rugby Spirit Festival”」では、横浜で世界のチャリティ団体と一緒にタグラグビーで日本の中学生と交流するプログラムのコーチをさせていただきました。

外務省の青少年招聘交流事業Jenesysでは、東ティモールの高校生たちとタグラグビーをするプログラムを担当しました。初めて数日間通しでの通訳業務を請け負い、新しい力が付きました。他には福岡県の「アジアラグビー交流フェスタ」。アジアラグビーの発展のために、14歳以下のチームを招き、福岡のチームと交流戦を行うプログラムです。メインの通訳として参加させていただきました。

今回、大好きなラグビーと自身の業務がつながることができ、また自分にとっても新しいチャレンジが出来たことでとても有意義な「ラグビーワールドカップ」となりました。

日本とアジア、世界中のスポーツが今後とも発展しますように。今後もスポーツで世界をつなぐ活動を続けていきたいと思えます。(米村)



Tokyo2020記念企画！ 任国スポーツ事情



2020年の今年、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。そこで、今年はおリパラ記念企画として任国スポーツ事情をシリーズでお送りします。

第一回の今回は、言い出しっぺの私・橋口の任国『ボリビア』です。南米に位置するボリビアですから、サッカーは国民の大好きなスポーツの一つ。実はワールドカップにも3回出場してるんですよ！とはいえ、最新データ(2019/10/24)では、世界ランキング75位(日本は28位)、南米ランキング10位。やはり南米はどの国もサッカーが強い！しかし、ボリビアには大逆転の秘策があります。それは「ホーム高地試合」です。首都ラパスにあるホームグラウンド「エスタディオ・エルナンド・シレス」。標高がなんと3,577mで、サッカーの国際大会が開催される球場では世界最高所にあります。この球場で、対戦相手が低酸素の高地に慣れない間に試合を行うという作戦です。このボリビアならではのトリッキーな作戦で名だたる南米強豪国に勝っています。

同球場はスポーツだけでなく、コンサートやセレモニー会場としても活用



もちろん、相手からしてみたら全くフェアじゃないこの環境。「こんな高地で出来るか！」という諸外国の声もありますが、FIFAに逆抗議し続けた前ボリビア大統領の働きもあり、未だこの高地でも試合が行われています。

ボリビアでしか観戦できない、この高地試合。ボリビアに行くことがあり、また国際試合があった時には、是非現地で観戦してみてください！そして、低酸素の中、息を切らしてボリビアに大声援を送っていただけますと嬉しい限りです！(橋口)



9月、10月に九州各県に開発教育を実践することを目的とした研修を実施しました。

講師に青年海外協力隊OBで現在は株式会社シンカクションリサーチ代表として活躍中の穂 広大（こうじ こうだい）さんをお迎えし、開発教育やSDGsの基本的な概要から参加型学習の体験を経て、参加者による実践まで計3時間半と少々長い研修でしたが、参加者からは「時間が短かった」という意見が多く、充実した研修となりました。



こういったセミナーや研修にありがちな落とし穴は、「勉強になった」という気持ちにはなるが「実践につながらない」ことです。今回は研修中に実践してもらい、自身のフィールドで使えるスキルを身につけてもらうことを重視しました。

各会場、20名という定員を設けさせていただきましたが、締め切り前に定員に達する会場もあり、大変好評であったと実感しております。今年の2月には福岡会場のみではありますが、入門編より少しレベルアップした上級者向けの指導者研修を行います。

県外の方には交通費のご負担はあるかと思いますが、研修は無料ですので是非ともご参加ください。詳しくは当協会HP、フェイスブックなどで広報していきます！ぜひチェックしてください。（河野）



※株式会社シンカクションリサーチについては、こちら⇒<https://kodai-koji.com>
 ※本事業はJICA九州の開発教育支援事業の一環として、当協会が受託し実施したものです。



2019年度 アフリカ理数教員青年研修！

当協会がJICA九州より受託した青年研修「アフリカ（仏語）/初中等理数科教育」が2019年11月19日にスタートし、12月2日に無事閉講しました。

赤道ギニアやサントメ・プリンシペ、中央アフリカ共和国、チャド、ブルンジなど12か国からやってきた18名の教員は、福岡県内の学校や博物館などを視察・訪問し、自国で実施するアクションプランを作成しました。女性に焦点を当てた「リケ女を増やすプロジェクト」や教育へのアクセス機会平等を目指した「小さな島に小さな学校を建てるプロジェクト」など、大変興味深いアクションプランができました。他には「算数オリンピック」、「うでまくりで掃除しよう計画」、「村落地帯での学習キャンプ」、「一人一本木を植える計画」など、実現したら大きなインパクトを出しそうな多様な計画ができました。私は、きちんと計画を立て準備すれば実現不可能なものはないと思っています。もちろん困難はありますが、仲間を増やしていけば彼らが立てた計画は実施できると考えています。

「淳平、プロジェクト成功したよ！」という声や、「壁にぶつかったんだけど、どうすればいい？」と連絡が来るのが楽しみです。アフリカの先生方、がんばれ！

最後になりましたが、ご協力いただいた訪問先始め、ホームステイご家族の皆様、本当にありがとうございました。（米村）



日本で食す！任国メシ：アフリカごはん（タンザニア編）

一部マニアの間で人気の任国料理ネタ。今回はレシピ編第3弾・タンザニア料理です！
中南米が任国だった私・橋口があこがれの「ウガリ」のレシピを当協会一のグルメ王・馬田事務局長より提供いただきました。ウガリは、トウモロコシの粉と水で作る料理。ケニア、タンザニア等、アフリカ南東部で主食として食べられています。ザンビアやマラウイではシマと呼ばれています。

材料：トウモロコシ粉（コーンフラワー）1カップに対し水2～3カップ

作り方：

1. トウモロコシ粉と水を鍋に入れ、よく混ぜる。
2. 強火で沸騰させ、グツグツしてきたら、ヘラでゆっくりと混ぜる。
3. 固まってきたら、ぐるぐると全体を混ぜる。（結構力がいらいます）
4. お好みの固さになったら火を止め、フタをして蒸らす。（10-15分）
5. おかずと一緒に皿に盛りつける。



「出来たてのアツアツが美味しいのです！」と馬田事務局長。憧れの「ウガリ」、早速、作ってみます！

料金後納
郵便

特定非営利活動法人九州海外協力協会
〒812-0025
福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503
TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304
E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



（特活）九州海外協力協会 ☆会員募集中☆

当協会では、活動に御賛同いただける団体・個人の皆様を募集しております。会員の方には四半期毎に発行しております「九州海外協力協会だより（本紙）」をお送りさせていただいているほか、当協会主催、共催のイベント情報などをご案内しております。ご関心のある方は、以下へお問い合わせ下さい！

発行 特定非営利活動法人 九州海外協力協会
〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503
TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304

HP: <http://www.npo-kyushu.or.jp/> E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



Instagram 的な Instagram

流行りに乗ってみました。

- #写真撮りたいだけなら
- #わざわざゴミを出さなくてもいいじゃない
- #でも、タピオカはおいしい！
- #飲んだ後、容器はゴミ箱へ
- #ってかデカイ
- #実はつま先立ち

